

鶴窓会だより

題字：元会長 佐藤 輝康氏 書

発行

山形大学農学部鶴窓会

発行日 2018年12月10日

第25号

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
山形大学農学部内

TEL・FAX 0235-28-2897

ホームページ kakusoukai.net

E-mail kakusoukai@kdp.biglobe.ne.jp

〈特集〉山形大学農学部が挑戦する食料自給圏「スマート・テロワール」の形成 03

会員の声 13 同期会報告 26

第25号の発刊に寄せて



山形大学農学部鶴窓会
会長 佐藤 晨一
(昭和41年農学科卒)

がもたらされ、北海道支部に
対してはお見舞いを申し上
げ1日も早い復旧を願うば
かりです。そして北海道支
部総会が会員相互の結束の
場となることを願つてやみま
せん。

本年の「鶴窓会だより」の
特集記事についてその候補が
話し合われたとき、これまで
の経過を踏まえながら、定ま
らず、宿題の形になつていま
した。この頃、私たちの同級
会員の皆様には日頃より
鶴窓会に格別のご支援とご
高配を賜わり感謝申し上げ
ます。

さて昨年は農学部創立70
周年記念事業を無事終えて
新しいステージに向けてス
タートし、「鶴窓会だより」も
第25号を数え会員の皆様に
お届けすることになりま
した。

本年は7月以来台風が数
多く押し寄せ、列島を覆う
高気温は記録ずくめとなり
真夏日も平年の3倍となる一
方、8月末の台風21号は近畿
地方ほか甚大な強風被害を
もたらし、さらに9月8日に
北海道胆振地方で最大震度
7を観測するという経験し
たことのない自然災害の連続

けるよい機会と考えたところ
です。

紹介記事は担当教官であ
る浦川教授、松山准教授、中
坪助教、堺原助教から「鶴窓
会だより」編集委員会(8月
6日)へのご出席をいただき、
原稿執筆をお願いしたところ
でした。こうした経過ははじ
めてであり、今後の「鶴窓会
だより」の方向性に少なから
ぬ影響を与えることでしょう。

大学の研究費確保は喫緊
の課題であること、外部か
らの寄附により成り立つこの
研究課題は平成28年に設置
され、本年研究は3年目を迎
えている現状もタイムリーで
した。

寄附はカルビー(株)相談役の
(故)松尾雅彦氏のご支援に
よるもので、松尾氏の提唱は
著書「スマート・テロワール」に
表されており、地域農業の再
生に欠かせない視点として
注目されていました。ご承知
のように日本の輸入総額は
81兆円にのぼり、燃料と食料
とで36兆4千億円、内食料は
8兆9千億円と輸入に頼つて
いる現状からは危機感を覚
える必要があることでしょう。

一方で米の一大生産地と
して母校のある庄内平野は
この課題が全てではないにし
ても、現在母校がおかれてい
る研究展開の一つに目を向

けるよい機会と考えたところ
です。

その地位を築きあげてきた
中で、自らの過去を振り返る
ときこの著書からは忸怩た
ずれにしてもこの研究成果
が地域に貢献できることを
願つてやまないところです。
そして農業振興を旗印に母
校の貢献が目に見えるよう
になつて欲しいと思います。
耕畜連携、農工一体、地産地
消を掲げ、農業の有機的連
携の中で実践している強みが
消費者にも伝わることが魅
力的ともいえます。

本年も支部活動は各役員
のご活躍により各支部で盛
り上がっていると聞いており
ます。私は宮城県と福島県
の支部に参加させていただき
ましたが、本部からのメッセ
セージを伝えるとともに若い
会員の積極的な発言により
組織の一体感を醸成するよ
い機会になつていると期待し
ます。

最後にこの紙面は会員皆
様からの会費によつて賄われ
ています。会費納入について
はどうぞご理解の上よろし
くお願い申上げます。

(平成30年10月20日記)